

はじめに

府中市では、生涯学習に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的として、平成30年度に第3次府中市生涯学習推進計画が策定されました。府中市生涯学習審議会では、令和元年度に教育委員会からの諮問「第3次府中市生涯学習推進計画の具体化に向けて」を受けて、当該計画の3つの基本施策について審議を行ってきました。

第3次府中市生涯学習推進計画では、これまでの生涯学習分野の蓄積を踏まえつつ、基本目標である、「みんなが学び 地域に返す 人と地域がともに育つ『学び返し¹』のまち府中」の実現に向け、新しい府中市の生涯学習のあり方を目指していくとしています。

今期の府中市生涯学習審議会では、市内のさまざまな施設で多様に実施されている生涯学習の活動状況についてできる限りの現状把握を行いながら、3つの基本施策（「誰もが学べる環境づくり」「誰もが活躍できる環境づくり」「生涯学習を支える基盤の整備」）ごとに、課題は何か、それにどう対処するか、について話し合ってきました。生涯学習センターや文化センター、市民活動センタープラッツも訪問し、施設の運営に関わる職員やボランティアの方々からの聴き取りも行いました。

そうした中で、府中市でも少子高齢化や地域コミュニティの弱体化等の問題が顕在化しつつあり、個々人や地域が抱えるさまざまな「困りごと」や「課題」の解決に対しても、生涯学習が何らかの役割を果たせる、果たすべきではないか、ということが明らかになってきました。

こうした問題意識を持ち、府中市独自の考え方である「学び返し」を通じて、生涯学習の新しい展開を図るため、以下を答申として取りまとめました。この提言がこれからの府中市の施策の手助けとなることを期待します。

¹ 学び返しとは、自ら学んだことや身につけた知識・技能など「学び」の成果を地域や他の方に対し還元しようという意味合いを持たせる「返す」とする府中市独自の考え方です。

基本施策1 誰もが学べる環境づくり

【重点施策】新たな参加を促すための学習環境づくり

答申のポイントとなる提言

- ◆ 生涯学習の拠点である生涯学習センターにおいて、継続的な講座やサービスの評価・見直し~~生涯学習のPDCAサイクル¹~~を通じて継続的な学習環境の整備・維持と良質な生涯学習の探求を見直しを進めていきます。
- ◆ さらなる「共助」の推進のため、市民のコミュニティスキル²（合意形成技能等）の向上を図ります。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、生涯学習の場においても、「3密³」を避けながら、いかにして豊かな学びを生み出していけるかが課題となりました。この経験を活かし、デジタル技術も活用して、これまで参加しにくかった人たちが参加できる、生涯学習の手法を検討していく必要があります。

1 「学びの場」の持続的見直し

「誰もが学べる環境づくり」に向け学習環境の充実を図り、新たな参加を促すために、常日頃からの問題の発見及び評価と改善のPDCAサイクルを実施することが必要です。府中市において、学習機会を提供している施設は数多くありますが、まずは生涯学習の拠点である府中市生涯学習センターで行われている学習活動の状況を分析することから始めることを提案します。分析の結果、例えば、多様な人たちが参加しやすい枠組（時間帯や開催場所）の検討や、新たな学習ニーズの掘り起こし等、具体的に活動を変化させ、学習の場の機能改善を図ることにつながるのではないのでしょうか。

¹ ~~PDCAサイクルとは、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）を繰り返すことによって、生産管理や品質管理などの管理業務を継続的に改善していく手法のことです。~~

² コミュニティスキルとは地域力を醸成するのに必要な双方向のコミュニケーションや合意形成技能、世代を超えて繋がるスキル（ICTの利活用含む）等をいいます。

³ 3密とは、密集、密接、密閉のことです。

2 さらに「共助」の推進のため、コミュニティスキルの向上を図る講座の実施

個々人が抱える課題の多様化や、地域で取り組む問題の深刻化に伴い、これまで以上に「共助」の考えが大切になってきています。地域に住む人々が協働して活動をしていくときに、各地域内の「学び」の活動を活性化させることが効果的ではないかと考えますでしょうか。地域の困りごとや個々人の抱える課題について、地域住民が学び合うことは、「学び」は多様な人々を結び、意見交換や経験交流を通じて新しい考えや活動を生み出すことに繋がります。

そうした地域活動の活性化に向けたひとつの大きな取り組みとして、府中市民のコミュニティスキルをはぐくみ育てる学習活動を行うことを提案します。例えばまずは、現在実施されている生涯学習ファシリテーター養成講座の学習内容に、コミュニティスキルに関わる項目や演習を組み入れることが考えられますから始めてはどうでしょうか。また、コミュニティスキルに特化した講座を広く市民向けに開設することも考えられるでしょう。このようにしてコミュニティスキルを獲得した人達が、自身の圏域の文化センターを「場」として活用し、その中で実践を行うことで、市民相互が結ばれる「学び」と「返し」の好循環を形成できることにつながることが期待できます。

3 社会時代の変化に対応した生涯学習の手法の検討

新型コロナウイルス感染症の拡大により、生涯学習の場においても、「3密」を避けながら、いかにして豊かな学びを生み出していけるかが課題となりました。会場に集まったの対面型に限らず、オンラインの活用や併用を進めることは、感染症拡大予防のためだけでなく、これまで参加しにくかった人たちも含め、より多様な人たちの参加を促すことにつながると考えられます。こうした新たな生涯学習の手法の検討についても、生涯学習ファシリテーターや、生涯学習ボランティア等と協働して進めていけないでしょうか。なおその場合も、情報格差(デジタルディバイド)の問題にも充分配慮し、インフラの整備等にも着手することが必要です。

基本施策2 誰もが活躍できる環境づくり

【重点施策】生涯学習と地域還元をつなげる事業の実施

答申のポイントとなる提言

- ◆ 少子高齢化や地域コミュニティの弱体化等によってさまざまな課題が生じているなかで、府中市の目指す「学び返し」は、個々人の暮らしや人生を豊かにするだけでなく、「地域に住む多様な市民が、学びあいを通じて、新しい考え方や、やり方を発見し、課題解決に向けて協働していく」という意識のもと新しい展開を深めていく必要があります。
- ◆ 「学び返し」の新たな展開を進めるため、多様な市民による実行委員会等の設置を提案します。例えば、生涯学習ファシリテーターや地縁組織、NPO 関係者や公募市民らにより、「学び返し」に新しい価値をつけ加えていける講座の新規企画を行います。
- ◆ 府中市においてより地域に密着した「学び返し」の拠点となり得る文化センター内にモデルケースとして、地域の住民が気軽に立ち寄って対話し、地域の困りごと解決の相談ができるにつなげる、学習サロンのような開かれた場所を設ける必要があります。

1 「学び返し」の新たな展開の必要性

府中市の目指す「学び返し」は「市民一人ひとりが持っている力を、社会に還元していくことである」と定義されています（平成17年第1期生涯学習審議会提言）。少子高齢化や地域コミュニティの弱体化等によって多様な課題に直面している今日令和の時代、国も「自助」や「共助」の大切さを強調し、様々な現場で「協働」による課題解決が必要とされています。「学び返し」における「社会への還元」も、個々人の人生や生活を豊かにするだけでなく、「学び」を通じて得た知識や技術、そして学びの場で育まれる人と人の繋がりを活かして、地域の困りごとや課題の解決に向けて協働していくことが求められていると考えます。そのためには、「学び返し」の価値を多面的にとらえて、市民の「学び返し」活動への参加意欲を高めることが必要になります。そこで、府中市の目指す「学び返し」の新たな展開として、~~は~~「地域に住む多様な市民が、

学びあいを通じて、新しい考え方ややり方を発見し、課題解決に向けて協働していく」という方向性を提案します。~~このプロセスで得られた共感や喜び、充実感が、生涯学習の新しい価値を生み出すのではないのでしょうか意識のもと、新しい展開をしていくことが必要ではないのでしょうか。~~

2 「学び返し」の新たな展開を進める実行委員会等の設置

「学び返し」の新たな展開に向けて、実行委員会のような作業グループを~~設置形成~~することを提案します。生涯学習センターは府中市における生涯学習の中心的拠点であるとともに、平成22年度から市内を中心に講師を発掘し、講座を開催することで地域の「学びたい人」と「教えたい人」をつなぐ役割（「創りたい人」）を担う生涯学習ファシリテーター養成講座を実施しています。「学び返し」の新たな展開に向けた実行委員会等には、例えば、生涯学習ファシリテーターの有志の方々に加え、自治会・町内会等の地縁組織、地域の課題解決に取り組む NPO の関係者、関心ある公募市民等に参加していただくとともに、大学等との連携による専門家の参加も考えられます。~~もちろん市の関連部署や機関の協力も欠かせません。具体的な活動としては、「学び返し」の新たな展開につながる講座の把握と分析、及び「地域や社会のニーズに応え、課題解決につながる」新たな講座の企画実施生涯学習センターや市民活動センタープラッツ職員等、関係機関の協力のもと、次の2つの柱を提案します。~~

~~(1) 「学び返し」の新たな展開につながる講座の把握と分析~~

~~生涯学習センターや各文化センター、さらに市民活動センタープラッツ等で実施されている講座の中で、「学び返し」につながるもの講座を把握し、その手法や内容、効果等を分析します。~~

~~(2) 「地域や社会のニーズに応え、課題解決につながる」新たな講座の企画実施~~

~~実行委員会等のメンバーが中心となり、府中市の抱える地域や社会の課題のなかで、行政や既存の組織だけでは対応しきれないもので、かつ「ともに学び、楽しみながらその後の活動につなげていける」ようなテーマを選び、「学び返し」の新たな展開につながる講座を、生涯学習センターなどを会場として企画・実施します。この講座を「学び返し」の新たな展開として広報すると~~

~~ともに、実施後のフォローアップも行います。~~

3 文化センターの「場」としての活用

地域課題の解決に向けては、その地域で何らかの形でイニシアチブをとる地域人材の発掘や育成が欠かせません。幅広い地域人材の継続的な活躍を生み出すためには、地域の人たちが気軽に集い、互いを知り合い、ともに動き出すきっかけとなるような、「場」を提供することが必要ではないでしょうか。いまの府中市では、各文化センターがその「場」を提供し得る施設ですが、残念ながら地域の住民が気軽に立ち寄って対話できるような仕組みにあまりなっていません。文化センターで中心的に活動するコミュニティ協議会とも連携しながら、曜日や時間限定で構わないので、地域の人たちが気軽に集える~~開かれた場学習サロンのような~~場を文化センター内に設ける創
出したらどうでしょうか。地域活動の拠点としての文化センターの活用、活性化ととも
に、文化センターの役割をサポートすることにもつながるのではないかと考えます。

基本施策3 生涯学習を支える基盤の整備

【重点施策】生涯学習の広報の強化

答申のポイントとなる提言

- ◆ アナログメディアにデジタルメディアを加えた形で、様々な媒体を活用し、情報共有を推進します。具体的には、ネットメディアの積極的な活用や、データとデジタル技術を活用し、~~た学習サービスを通じ、学習者のニーズ志向に応えることを中心にして~~広報事業をよりよくします。
- ◆ 動画配信サービスや SNS を積極的に活用します。生涯学習センターで実施されている講座の紹介動画を関係各所と連携して制作し、そうした活動を「学び返し」活動の一つとし、さらに推進していきます。

1 広報活動の多様化の推進

若年層から老年層まで滞りなく「学び」や「学び返し」を希望する人たちに~~学習者向け~~の情報が伝わるよう、そして、情報の受け手の手間が最小限となる~~形で利活用が~~~~できる~~ような広報が必要です。紙媒体にデジタルメディアを加え、様々な媒体を活用した広報が求められます。とくにデータやデジタル技術を積極的に活用し、講座の録画配信などを行うことで、「学び返し」を促す施策にも応用することができるのではないのでしょうか。また、情報の受け手にとっても、デジタル技術やマルチメディアの利用は、不可欠になりつつあります。例えば、デジタル知識や操作技能の講座を設けて、十分な配慮を含めて積極的に身に付けてもらう取り組みも必要です。さらに生涯学習に参加する人たちが、アナログ・デジタルの区分なく、学びにつながる様々な情報を入手する事が出来るよう、支援していくことが今後より大切になってくるのではないのでしょうか。

2 具体的な広報活動の実施

今後は、YouTube などの動画配信サービスや、SNS の積極的な活用が今後は求められてくるのではないのでしょうか。例えば、生涯学習センターで実施される講座の紹介動画を作成することなどが考えられます。こうしたメディアの積極的な活用を通じ、

より充実した情報の提供が可能となります。なお、紹介動画などのコンテンツ作成は、メディアの利活用を学ぶ学習団体⁺や、市のメディア発信を担う課などの各関係各所と連携を通じて制作することも検討すべきでしょう。こうしたコンテンツ制作自体を講座化することは、「学び返し」の好例として捉えることもできます。基本施策1や基本施策2の取り組みとも有機的に連動させることも重要でしょうで、「学び返し」活動の一つと位置付け、推進していくことが望ましいのではないのでしょうか。

⁺~~例えば、府中市生涯学習センター内の「生涯学習ボランティア 悠学の会」など、積極的に活動する団体組織に依頼できることが望ましい。~~

おわりに

今期の府中市生涯学習審議会では、府中市独自の考え方である「学び返し」を軸として、市民の学習環境の向上とその学習成果の適切な還元の方法について議論してきました。前者では、幅広く市民の学習需要に応える工夫を審議し、後者では、生涯にわたり行われる学びが、いかに人材育成や地域の課題等の解決に寄与しているかについて話し合いました。

そうした中で、時間の関係もあり議論が尽くせず答申本文に文言は入れられませんでした。いくつか重要な論点も出されました。例えば生涯学習ファシリテーターの役割をさらに明確化することや、広報活動における伝え方の工夫、コミュニティスキルと既に行われている地域活動との関連性、「学び返し」における文化センターの役割、ハンディキャップを持っている方への配慮、他市の生涯学習情報システムの調査等です。これらは、今後の府中市の生涯学習に関わり検討を要する論点だと考えられます。

また、今期の府中市生涯学習審議会では、3つの基本施策それぞれについて、具体的な対応や活動を要する提言を行いました。今後は、これらをどう具体化していくかが重要となります。当審議会の委員は今後もそれぞれ一市民として、或いは生涯学習に関わる諸団体の構成員として、それぞれの場で提言の実現に協力したいと考えていますが、それとともに、次期の審議会においても、今期の提言の具体化についてフォローアップをしていただければと願っております。

時代の変化に伴い生涯学習も進化していくことが必要ですが、「学ぶこと」「学びあうこと」「学び直すこと」の楽しさとその意義は変わることはありません。本答申が、今後の府中市の生涯学習の発展につながることを期待いたします。